# 松島トミさんの口承文芸 4

大 谷 洋 一

目次 1. まえがき

- 2. 凡例
- 3. オオカミの木彫りを持つ女を救った男のウエペケレ
  - 3-1 語り手によるあらすじ
  - 3-2 アイヌ語本文と日本語訳

### 1. まえがき

本稿は、1922(大正11)年に門別町の厚別川流域で生まれ育った松島トミさんがウエペケレと呼んでいるアイヌの口承文芸 1 編とその日本語訳である。

この物語を要約すると「ある青年がどうしても旅がしたくなって出かけた山中で、一人の女が赤ちゃんと暮らしているのを見つけた。そこへは毎晩のようにクマが襲ってくるのだが女の持っていた木彫りのオオカミがイヌの姿になってクマを追い払っていた。木彫りのオオカミはその女の兄が作ってくれたものであった。青年がクマの足跡を辿り、巣へ行って弓矢でクマを倒すと、夢の中にクマの神が現れて事情を説明した。クマの神は人間の女を妻にしようとしたのであった。青年は女と赤ちゃんを村へ連れ戻してクマの魂を祭った。すると青年はそのクマの神に見守られて幸せに暮らすことができた」という内容で青年が自叙する形式の散文説話である。

本編と同様の物語は、萱野茂氏によって1967年に平取町荷負本村で録音されたものがアイヌ語原文対訳で報告 されている。人間が作った木彫りのオオカミではなく、神が作った木彫りのイヌが人間の女を助けたという類話も同じく萱野氏によって1971年に同町二風谷で録音されたものが報

<sup>(1)</sup> 萱野茂採録・解説「ニ・ボン・ホロケウ・イ・エ・ブンキネ 木彫りの狼が私を助けてくれた」『ウエペケレ 集大成 第1巻』アルドオ(1974)、録音テープ付き。この物語の日本語訳のみを記したものに萱野茂採録・訳ウ ウェペケレ 木彫の狼」『アイヌ民話のふるさと 二風谷の手帳』日本民話の会(1987)と萱野茂「木ぼりのオオカミ」『キツネのチャランケ』小峰書店(1974)がある。なお、後者の物語の梗概が稲田浩二、小澤俊夫編『日本昔話通観 第1巻 北海道(アイヌ民族)』同朋舎(1989)に記されている。そこには話者が「男」と記されているが原典にはそのような記載はない。原典の語り終わりに「と、りっぱなひげをはやした老人がかたってくれました。」と物語中の自叙者が語る言葉があり、それを実際の口演者とみなした可能性がある。

告<sup>(2)</sup>されている。

松島さんのアイヌ語の発音は、沙流方言の話者とは違ったところがある。本編の中では沙流方言のマッ mat をマッ mak、カッケマッ katkemat をカッケマッ katkemak、コッマッ kosmat を コッマッ kosmak、ホッケ hotke をホッケ hokke 等と、t の音を k に発音している。ゆっくり発音してもらっても同じであった。沙流方言では、マッ mat「女、妻」の所属形はマチ maci あるいはマチヒ macihi となる。松島さんの場合も所属形は同じ形になり、決してマキ maki やマキヒ makihi とならない。そこで本来の形は mat と判断してローマ字表記することにした。また、松島さんはアフナン ヒネ ahun=an hine などの接続助詞ヒネ hine の h を落としてアフナンイネ、hiを落としてアフナンネと発音することがある。そこもゆっくり発音してもらうと「ヒネ」と発音されるので、ローマ字表記は hine に統一する。ヒケ hike の場合もhが頻繁に落ちるがヒネのように母音は無声化しない。これらが厚別川流域の方言の特徴なのか個人の癖なのか、同じ出身地の他の話者から充分な調査を行っていないので今のところ詳しくわかっていない。

このウエペケレの伝承と採録の経緯は以下のとおりである。

- ① 1935 (昭和10) 年頃、門別町厚別川流域で同地域出身の老人から松島トミ氏が聞いた。
- ② 1998 (平成10) 年 3 月29日、松島トミ氏の自宅で筆者が録音 (35分43秒間、本報告) した。その際、同町出身の幼なじみである鍋沢キリ氏が聞き手の一人として同席した。
- ③ 2001 (平成13) 年10月26日、松島トミ氏の自宅でこの物語のあらすじを筆者が録音 (21分36秒間、本報告) した。

本稿は松島トミさんをはじめ大坂拓氏やモニターの方々から、音声の文字化やアイヌ語の意味解 釈について数多くのご教示をいただきました。記して心から感謝いたします。

### 2. 凡例

基本的なアイヌ語ローマ字表記は社団法人北海道ウタリ協会が企画・発行した『アコローイタクAKOR ITAK [アイヌ語テキスト1]』(1994) の表記法に従っている。

- (1) 本文は二段組として、アイヌ語による語りの部分を左側に、その語句の日本語訳を右側に記す。
- (2) アイヌ語のカタカナ表記は、なるべく実際の発音に近いように記す。そのため kor などに対して「コロ」や「コル」のように二通りの表記が現れる。わたりの音とみなしたものはカタカナ表記に反映させている。例:イヨマァ i=omap/イヨンルイカ ionruyka/ウウェカラパ uekarpa
- (3) アイヌ語のローマ字の表記は、音素交代やわたり音とみなしたものを記さない。例:ポイセタアンマ pon seta an wa。

<sup>(2)</sup> 萱野茂編「ニーポン セタ(3) 木彫りの小イヌ」(話者:貝沢トロシノ)『萱野茂のアイヌ神話集成 第6巻 ウウェペケレ編 Ⅲ』ビクターエンタテインメント (1998)

- (4) ローマ字表記の大文字は日本語、小文字はアイヌ語である。ただし地名の場合は語頭のみ大文字とする。アイヌ語原文のカタカナ表記では日本語をひらがなで記す。
- (5) 話者以外の発言や補足事項を〔 〕内に、言いさしを( )内に記す場合がある。現時点で解 釈が不確実な語句についてはその語尾に「??」を付ける。

# 3. オオカミの木彫りを持つ女を救った男のウエペケレ

## 3-1. 話者によるあらすじ

ユペツン Yupet un というとこの部落に、お父さんもいる、お母さんもいる、 兄弟も弟も兄貴もいるんだけども、ま、谷に親と行けば、山行けば、 マタギに行って、したら、もらシカでもクマでもなんでも大猟して、獲ってきて、 や一、もう、何不自由なく食べていたんだけども、もう山ばっかりだら飽きるから、 川さ、海さ行きたいと思って、なんぼ我慢しても駄目で、そして川さ行っ、、海さ行って、 ふーん、魚も大漁したけども、どうしても家さ戻るの嫌で嫌で嫌で、 な一んぼ我慢しても駄目だから、舟の行くまんまにまかせて、こんど、 行って歩いて、行って行って行って、イッカラ Iskar、、イシカリちゅうとこへ行って、 そして舟、そこで繋いで、そしてこんど、部落あるの、その部落さ、 ずっと大きい部落なもんだから、歩いて歩いて、そして部落の端に、、 だ、端でな、、真ん中に、すごい、あ、、酋長の家あって、こんど、 その前にとまりたくて、とまって、そしてなんぼ挨拶しても、出てこないで、そして、 出てきたけ、すんごい素晴らしい、いい女の人が出てきて、そしたけど、 なんとなくもう、暗い顔した女の人で、「入んなさい」ちゅうあれで入って、 したら旦那もいる、よくよく見たら、その旦那に挨拶して、そして、 よくよく見たら、女の布団もあれば男の布団もある、そういうふうにして、 すごい酋長の家だから、立派だけども、とにかく、その旦那さんも、 挨拶はしたけど、旦那さんはすごい愛嬌いいんだけども、 その奥さんも何か悩みあるように思えて思えて、どうもならない、こんど、 その息子も起こされて、そして来るんだけど、起きて来るんだけども、 その息子も、なんとなく暗い顔している一、どうも何か、 この家にあるなと思って、気にして気にしていたんだけども、こんど、 また、そっから戻って、舟さ来て、その釣った、、大漁したもんだから、 その魚持ってたけ、喜んで、その旦那さんも喜んで、で、奥さん 一所懸命お汁炊いたり、そしてご飯よばれて、そこで泊まって、そして、 次の朝なったけ、こんどまた、山さ行きたくて行きたくて、どうもならんけども、 いや、知らない山だのに行ったってどうするべなっと思ったけども、

もう冬だもんだから、まかないつけて、そして、着替えて、そして、 山に狩するもの、、道具やら、みんな背負って、そして、 川あるもんだから、その川伝わってずっと山へ行って行って、したけその、 伝わって行った川、こんど大きな川あって、その川さつながさっているもんで、 そこへ流れるようになってるもんだから、こんど、どうもならんなと思って、こんど、 その大きな川の縁、ずっと山さ行って、もう行けるだけ行こうと思って、 行って行って行って行って、しったけもう、疲れたもんだから、こんど、

行って行って行って、しったりもり、疲れたもんだから、こんと、 立って、あっちこち見てたけ、ずっと山奥に、なんかちっちゃい家、、

小屋見えるから、こんどそれから頑張ってまた、行って行って行って、して、したけ その家近く行ったけ、その川から水汲むようで、女の足跡から、

イヌの足跡がすごく、あるもんだから不思議に思って、そこに立って、

見てて、こわいもんだから〔疲れたので〕、立って、あっちこちキョロキョロしていたけ、 その小屋の前に、ちっちゃい今歩きがけの子供もいる、こったら山に、

なんで家あるんだべなーっと思って不思議で不思議でどうもならないけども、

見ていたんだけ、イヌいれば、これくらい近いんだから吠えるはず、

イヌも吠えらないば、その小屋ちかけで〔近くへ〕こんど歩いて行って行って行って、

したけその子供、おっかないみたいに家さ入ってしまった、こんど、

家の前にいて、それがしきたり゜なもんだから、挨拶したけども、

女も出てこない、誰も出てこない、もんだから、こんど、入って行って、したけ 女の人いて、そのちっちゃい子供、その親に抱かれて他人見たことないもんだから、、

抱かれている、けども、その女の人はもう泣いてるみたいにみえて、そして、こんど、

挨拶したけ、こんど、髪、長くしてるもんだから、それ分けて、こんど

挨拶して、、そうして、いる、どうしても泣いているようで、

いやーいや、何してこんな山奥の、この、子供ついて女の人いるだべなと思って、

どうしても不思議でならないんだけども、まさか、行ってすぐ聞くわけにもいかないで、

不思議に思って思っていて、したけ、こんど、で、もう、思い切って、

聞こうと思って、イヌもいないのになんでこの足跡あるんだべなと思って、

不思議に思って、いたけども一、こんど、は一、思い切ってその女の人に

「どうしてこんな山奥に、あの、一人ぼっちでこうやってしてるんだ」と、

男の足跡はなんもないで、その女の足跡ばっかりだから、

不思議で思って聞いたけ、こんど、泣いて泣いて泣いていて、こんど、

実はこうこうで、ユペツン〔イシカリ〕 、から、兄貴もいる、は一、親もいるんだけども、

<sup>(3)</sup> 筆者には「ヒキダレ」と聞こえていたが、モニターから「しきたり」とご教示あり、松島さんから確認して修正した。

<sup>(4)</sup> この女の出身地はイッカッ エムコウン コタン Iskar emko un kotan「イシカリ川の中ほどにある村」であるが「ユペツン」と言い損なっている。

その、コタン、コタン kotan [村] の酋長の息子に貰われて、

そして嫁さんに来たんだけども一、もうもうもう、姑もいいくて、

もう、お嬢さんみたくに嫁さんに来たんだけども、もう旦那さんもいいし、

姑さんも、みんないいくて、なんにも自分に、もうご飯支度もささんで〔させないで〕その、

親が一所懸命やってくれて大事にされて、いたのに、こんどなにしたんだか、

そ、、その山に薪のいいとこ〔薪取りに適した場所〕、あるから、

もう自分妊娠してるんだのに、そして、親もわからんもんだから、

「こんど、薪のいいとこ教えるから」って、姑お父さんが言うもんだから、こんど、

かたって〔一緒に〕、山行ったけ、行っても行っても行っても、

その薪あるとこさ行かないでー、もう、ずっとどこかどこだかわからないで、

山ちゅうもの歩いたことないからだけども、わかんないで、

そして連いて行って行って、したけその、

「めんこい〔小さな〕小屋建ってるとこさ行って、こんど火焚いて、

そして、ここにあたってれ、今、薪のある、いいとこさ行って、見て、

見て来てから教えるから」って言われて、そやってしていたけ、こんど、

そのまま父親も帰って来ない、泣きながら探しても、どこがどこだんだかわからんくて、

もうもう諦めて、ここで、こやって食う物もみんな置いてあるし、したもんだからもう、

どっから来たんだかもわからんし、したもんだから、そこで、へー、へ、、

こやってしていてお産して、そしてこの子供出来て、したんだけども、

帰る事も出来ないんだけど、夜になればその、ク、クマ出てきてや、

もらもら、も一ら、おっかなくて〔怖くて〕、おっかなくて、もら、

どうすることも出来ないんだけども、もうもう、仕方ないと思って、

もう、神さん願うことばっかりしか考えて、そしてもう寂しい思いして、

こやってしていたけどー、もう、その嫁さんに来る時、

兄貴がちっちゃい子供の時、こしらえて、

「なんにも玩具ないから、お前に玩具こしらえてやるから」ちって、そう言って、、

シャモ〔和人の言葉〕でなんて言うんだかしらんけど、

そのホル、ホルケウ カムイ horkew kamuy [オオカミの神] ちゅうの、

神さんのあれを作ってくれて、そしてなんだかかんだか言ってたけども、

わからないで、それ玩具に持って遊んで、そして、いたけ、

嫁さんに来るようになってから、

「これはお前のお守り、ちっちゃい時からお前のお守りに作ったもんだから、

嫁さんに行っても離さないで、持ってれよ」って言われて、兄貴に言われて、

そして持って嫁さんに来たもんだったから、ふところから離さないで、

そうしていたーもの、夜になって、そして、そのクマが出て来て、

もうもう、しっとい〔ものすごい〕声で山から下がって来る声聞いたら、こんど、

もうそのイヌもあつかっていないもの、そのイヌ吠えて吠えて吠えて吠えて、

もう、しっとい取っ組み合いするのも、わかっていて、こんど、

あんまり不思議だから、ふところ見たけ、その、こしらえてもらったお守りがない一くて、

もう、いや不思議だなーって、お守りだけど、助け神だべかなと思いながら、

こんどいて、こんど、、そのクマが戻ってしまえばっていう、ふところ見れば、

そ、そこさまたお守り入っている、いや一このお守りに、

守られているんだなと思いながら、あれしていたー〔感謝していた〕、

そやって毎晩、もうもうもうもう、ほんとに生きたそら〔生きた心地も〕、ないで、

そやってして、あー、子供と二人でこやってしているんだけども、もうもうもう、

どうなってこんなことなったんだか、わっけわからないんだって〔理由がわからない〕、

泣いて物語って、そして初めてわかって、このイヌもいないのにイヌの足跡あるのは、

アイヌ aynu [人間] のほんとのお守り神さんだなーちゅうこと、自分も察して、

そして、いたけ、その晩ちゃん〔と〕、背中あぶりして、火焚いてくれるもんだから、

もちろん布団あるわけでないもんだから、そやってして寝ていれば、

ほんとに、その晩にも、クマ下がって来る声、聞こえて、そしてすれば、

やっぱりそのイヌ、大きなイヌらしくて、吠えて吠えて吠えて吠えて、

いる、の聞きながらいたけど、出るもしないで、そして、自分、いて、

いたもんだったもの、もうもうもうもう、次の日、こんど、起きてからこんど、

女の人、もの炊いてくれたもんだから、食ってからこんど、その足跡調べて、

山へ、い、行ったんだとさ、そして、山行って、足跡、したけ、

もう、その、ブドウのあれ「蔓」やらで、家こしらえて、ちゃんとした家あ、あって、

そこ、そこさ入って行った足跡あって、そしてこんど、や、山の方、

遠くから行っ、回ってこんど、そっから、弓、弓で射ったけ、

うんまく当たった「上手に命中した」もんだから、もう、すんごい唸り声して、

倒れたの見たもんだからこんど、それから下がって来て、

下がって来て、、その家さ行ってみたけ、もう、矢刺さって死んで、

弓刺さって〔矢が刺さって〕死んでるもんだから、こんど、

それから下がって来て、こんど何も言わないで、そして夢、

ほんとの カムイ kamuy〔神〕、神さんだったら夢みせるわと思って、

その晩にまた泊まって、したけ、その神さんがやっぱり夢に出て、

こうゆう人来るとも思わなかったもの、こやってして来てほんとに、

命とられたけども、その悪い世界さ行かないように、神さん頼んでくれちって、

そう言って、たな、頼む夢見て、したもんだから、それからこんど、

次の日起きてこんど、火の神さんに拝んだりして、そしてこんど、

赤ん坊、自分負ぶってこんどその、女連れて、火もしっかり、消して、下がって、 まぁ、下がって下がって下がって、よいーやく、は一、その部落近く来たけ、

その女喜んで、ぶっ飛んでしまってこんど、あとからこんど、

赤ん坊背負ったまんま、赤ん坊やら、その道具ら持つもんだから、

もう、ひっとい〔とても〕疲れるながらだけど、こんど、家さ入ったけ、

まぁ一人いっぱいいて、もうもう喜んで部落の人ら集まって、

その女さ相撲とって〔抱き合って〕泣いて、みんなして、

そのお母さんも泣く、旦那も泣く、もうもうもう、したけど

その父親だけはすらっとしている〔冷静にいる〕、

おかしいなと思いながら、あれして、入って行ったけ、

その赤ん坊もいるもんだから、もう、その婿さんも喜んで、

その赤ん坊抱いて、泣いて泣いて、そして「もう、よく生きていた」って

喜んでくれて、そしてこんど、それからまた、そこに泊まって、したけその、

クマがもうご機嫌いいくて、みんな酒こしらえたりなんだり、

こしらえて早いもんで、そして次の日こんど、酒こしらえたり、そやってしてこんど、

神さん頼んで、出来心でそやってして、カムイだのに人間に、

神さんだのに人間にそやって惑わしたんだから、けどもそれは仕方ないって

神さん頼んで頼んで、火の神さんやら、いろいろ山の神さんにやら、

お願いしてして、そしてこんど、したもんだから、喜んでもう、安心してこんど、

それから、その酒こしらえてイワッテ iwakte 「魂送り」 、御幣作って、

そしてイワッテからこんど、こ、、見張るボタンガカ 部落の女やら男やら、

連いてその山さ行って、その殺したクマの料理〔解体〕してもら、

背負っても相当大きなクマだから、背負っても背負いきれないくらい、

みんなで、部落の者ら行って、連いて行って、そして背負って自分も、

分け前貰って、そして帰ってきて、その晩、また泊まって、したけ、

その悪い部落。さも行かないで、

その当たり前、神さんの、と仲間入りすることなったって、

そのクマの神さんが、すんごく笑ってもう、止まらないような笑顔で、

喜んで、ありかとうちって〔ありがとうと言って〕夢見せて、そして、

もんだから安心してこんど、次の日、こんど「帰るから」ちったけ〔と言うと〕、

**もうその婿さんも「おかげで、ほんとに嫁さんも助かった、赤ん坊も助かった、** 

子供も、こ、れだけ大きくなるまで山で寂しい思いしていたっちゅうことで、

その、守り神さん〔木彫りのオオカミ〕にも一、御幣やって、ありがとう言って、

<sup>(5)</sup> 不詳。

<sup>(6)</sup> 松島さんによると、テイネモシャ teyne mosir 「湿った世界」のことである。

したもんだから、その女も泣きながら、喜んで、そやってして、こんど、自分、部落さー、帰って来たっけ、親には怒られる、兄貴らには怒られる、おんじにもどこさ行くとこも言わないで行ってから、三日も四日もこやって来ないで、から、「こんど、肉背負って来る」ちゅって、怒られて、しても、もう仕方ないと思って、その場は言わないでいてこんど、実はこうこうこう、こうだんだって〔かくかくしかじかで〕言って、それは「人助けであったのか。お前、普通の人間でないんだな。」ちゅって、そう言って、父親も母親も兄弟らも喜んで、人助けしたんだから、二人の命助けたんだから、いかった、いかったって喜んで、そして、喜ばれたもんだかた、こんどその部落から、嫁さん、兄貴は貰う、弟も貰う、自分も貰う、して、とってもいい暮らしして、なんにも困ったことないで暮らしたから言うとさ。

#### 3-2. アイヌ語本文と日本語訳

あー、ユーペトゥンクル アネーワ yupet un kur a=ne wa アオナハアン ア、アユプタリカ a=onaha an a,, a=yuputari ka オカ ワ オカアンペ アネイケ oka, wa oka=an pe a=ne hike アオナハ トゥラノ エキムネアンコロ a=onaha turano ekimne=an kor ユゥエネ カムイヘネ アエアウナルラ yuk hene kamuy hene a=eawnarura ネッ アコンルスイ ネッ アエルスイーカ nep a=kor rusuy nep a=e rusuy ka ソモキノ オカアンペ ネーヒケ somo ki no oka=an pe ne hike シネアンータ、、シネアントタ アー、 sine an ta,, sine an to ta

私はユペツの住人で

父がいて、兄たちも

いて暮らしていたところ

父と一緒に山へ狩に行くと

シカでもクマでも捕えて運んでいた。

何を欲しいとも何を食べたいとも

思わずに暮らしていたところ

ある日、

<sup>(7)</sup> 松島さんは、接続助詞のヒケ hike「~したところ」について、しばしば語頭のhを落としてイケ ikeと発音する。ヒネ hine「~して」の場合は語頭の h が落ちてイネになるほか、hi が落ちてネのみになることもある。そこをゆっくり発音してもらうとヒネやヒケになる。イネ ineやネne の語形を筆者はヒネ hine と記した箇所がかなりあった点を、モニターの方々に指摘されて出来る限りの修正を行った。

アトゥイラマンテ アキルスイ

atuyramante a=ki rusuy

私は海漁をしたくなった。

マッアンペクス エアラキーンネ

mak an pe kusu earkinne

どうしたものか、とても

アトゥイ オルン アラパアン ルスイ ペネクス

atuy orun arpa=an rusuy pe ne kusu

海へ行きたくなったので

は一、アトゥイオルン アラパアンーして

atuy orun arpa=an SITE

海へ行って

チェッ ア コイキー ワ チッ、はー、ポロンノ

cep a=koyki wa cip poronno

魚を捕って、舟にたくさん

アエシッテヤ コロカ チセオルン

a=esikte a korka cise orun

いっぱいにしたけれども家に

ホシピアンーカ エ、エアイカッノ

hosipi=an ka eaykap no

帰りもせずに

ヒナクン カ アラパアン ルスイ

hinak un ka arpa=an rusuy

どこかへ私は行きたい、

エアラキーンネ アラパアン ルスイ

earkinne arpa=an rusuy

ほんとうに行きたい

エタカスレ キ ネウン

etakasure ki neun

とても強く思うのをなんとかして

ヤイトモイタク アナヤッカ

yaytomoytak=an a yakka

自分をなだめていたが

ウェンペネクス こんど、は一、ネノ

wen pe ne kusu KONDO neno

それも出来なくなって

チプ アラパヒ ネノ アラパ アーン

cip arpa hi neno arpa=an

舟で私は出かける

アイーネ イシカル、、オッタ ヤナン

ayne Iskar,, or ta yan=an

と、イシカリに上陸した。

エタカスレ ヤナン ルスイ ペネクスー

etakasure yan=an rusuy pe ne kusu

とても岸にあがりたくなって

<sup>(8)</sup> 松島さんは、アトゥイラマンテアン atuyramannte=an「私が海猟をする」という表現もするので、ここは一語 と解釈して記した。なお、ラマンテ ramante とイラマンテ iramante を単独で発音した場合、音高の位置は共に第2母音にある。

<sup>(9) 「</sup>どこ」を意味する位置名詞は、沙流川下流でフナッhunak、沙流川中流以上ではヒナッhinak という。松島さんは基本的に後者の地域とほぼ同じ疑問詞を用いている。沙流川流域で「だれ」を意味するフンナ hunna の場合はヒンナ hinna と表現する。

オロタ ヤナンヒネ チッ アショコテイネ

oro ta van=an hine cip a=sirkote hine

こんど、、コタン トゥラシアン

KONDO kotanturasi=an

コタントゥラシアン イネー、、こわい

kotanturasi=an hine. KOWAI

アクス コ、、ウー、 コタン ノッキター

akusu (ko. . u. .) kotan noski ta

コタンコンニッパ ネ ノイネ アラムー チセ

kotan kor nispa ne noyne a=ramu cise

ポロ チセ アン ルウェネ ヒネ

poro cise an noyne hine

オロタ エタカスレ アラパアン ルスイ

oro ta etakasure arpa=an rusuy

ペネクス オロタ アラパアンイネ

pe ne kusu oro ta arpa=an hine

シムシッカ アナクスー ソンーノ、ポン

simusiska=an akusu sonno (pon,,)

たいぶん、ス、スクラメノコ、カッケマク

TAIBUN sukup menoko , katkemat

ソイネー アクス ソンーノ ピリーカ

soyne akusu sonno pirka

トゥ イメルクル レ イメルクル

tu imeru kur re imeru kur

チコトゥイトゥイケ ピリーカー カッケマク

cikotuytuyke pirka katkemat

ソイネーヒネ キアクス ナヌフ

soyne hine ki akusu nanuhu アヌカラー クス ピッカメノコ

a=nukar akusu pirka menoko

ネク、ネブ カー エシリキラブペ アン ノイネ

nep ka esirkirap pe an noyne

そこに上がって舟をつないで

そして村に沿って、

私は村に沿って行く

と、村の真中に

村長であろうと思った家

大きな家があって

そこに特別に行きたく

なったので、そこに行って

咳払いをすると、本当に

とても働き盛りの婦人が

外に出ると本当に美しい

二つの輝き、三つ輝き

をよぎらせた美しい婦人

が外に出て来たのでその顔を

私が見ると、美しい女は

何か悩みを持っているように

<sup>(10)</sup> 松島さんによると、スクァメノコ sukup menoko「働き盛りの女」「一人前の女」である。

イラム アン、はー、こんどー、イハウ、、

iramu=an (HA, ) KONDO (ihaw, , )

イヤフンテクス ハウェアンペネクス

i=ahunte kusu hawean pe ne kusu

アフナン アクス ネ コタン コル ニッパカ

ahun=an akusu ne kotan kor nispa ka

アンペー ネ コロカ ネー ニッパ、、

an pe ne korka ne nispa

ネッカ キーカ ソモキー ノ アンシリ

nep ka ki ka somo ki no an siri

アヌカル ウウェランカラブ アン キーコロ

a=nukar uerankarap=an ki kor

ウウェネウサル アン コロ オカアナコロカ

uenewsar=an kor oka=an a korka

ネー カッケマゥ アナゥ ソンーノ ネッ

ne katkemat anak sonno nep

エシリキラッペカ アエラムペウティ コロカ

esirkirap pe ka a=erampewtek korka

ネッカ エシッキラッペ アン ノイネ

nep ka esirkirap pe an noyne

イラムアンー ワ エアョキンネ

iramu=an wa earkinne

ア ケウトゥム タ あれなもんだからー、、

a=kewtumu ta, ARENAMONDAKARA,,

インカラ アニケ メノコ トゥンブ

inkar=an hike menoko tumpu

オッカヨ トゥンブ アン ルウェネ

okkayo tumpu (an ruwe ne, )

ウサムタ アン ルウェネヒネ こんど

usam ta an ruwe ne hine KONDO

オッカヨー アナク モコロワ アンペ

okkayo anak mokor wa an pe

私は思った。そして

私に家に入るように言ったので、

入ると村の長者も

いたけれども、その長者が

何もしないでいる様子を

見た。私が挨拶をすると

よもやま話をしていたけれども

その婦人は本当にどんな

心配事なのかわからなかったが

何か悩み事があるように

思って本当に

私の心に、あれなもんだから、、

見ていたところ、女の布団でが

男の布団の

そばに並んでいて

男は寝ていたもの

<sup>(</sup>II) 松島トミさんによると、トゥンプ tunpu の意味は「ゴザで仕切られた寝床」であるが、ここでは「布団」の意味で用いたという。一区画に夫婦の布団が二組あるが男だけ寝ており、その妻は見当たらないことを述べている。部屋が別々なのではない。

ネー ノイネ メノコ トゥンブカ

ne novne (menoko tumpu ka...)

らしく、

メノコカ イサムノ ネー メノコ

menoko ka isam no ne menoko

女もいないで、その女の

トゥンブ だーけー アン ルウェネー ヒネ

tumpu DAKE an ruwe ne hine

布団だけがあったので

アエヤモッテ コロ ウウェネウサル

a=eyamokte kor uenewsar

変だなと思いながら、よもやま話

そしたけ ネー コタンコン、チセコル ニ、ニッパー

SOSITAKE ne kotan kor, cise kor nispa

をすると、その家主は

「アポホ ホプニワ シレラムシカリ

"a=poho hopuni wa sireramusikari"

「息子よ、起きなさい。初めて見る

わかいもの エクワ アンナ

WAKAIMONO ek wa an na

若者が来ているぞ。

ホプニワー ウウェネウサル ヤン」セコロ

hopuni wa uenewsar yan" sekor

起きて、話し合いなさい」と

ハウェアン アクス ネ わかいもの

hawean akusu ne WAKAIMONO

言うと、その青年が

ホプニワ エキーネ、、ピリーカ オッカイボ

hopuni wa, ek hine, pirka okkaypo

起きて来て、美しい青年

ネー ア コロカ ネー オッカイポカ

ne a korka ne okkaypo ka

であったけれども、その青年も

ネッ カ エシリキラッペー アン ノイーネ

nep ka esirkirap pe an novne

何か困ったこ心配事があるらしく

イラムアン ネー カッケマク トゥラ、ア、ウ、ウー

iramu=an ne katkemat tura

思えた。婦人と一緒に

エショキラッペ アン ノイーネタ ヤイヌアン

esirkirap pe an noyne yaynu=an

心配事があるように思えた。

ラマンテアンペネクス キーコロ、、

ramante=an pe ne kusu ki kor

私が狩をしたので、そうして

<sup>(12)</sup> 松島さんによると、エヤモッテ eyamokte は「〜を変だなと思う。〜を不思議に思う。〜を不審に思う。」である。 1 項動詞はイヤモッテ iyamokte の形になる。北海道教育庁生涯学習部文化課編『平成3年度久保寺逸彦アイヌ語収録ノート調査報告書(久保寺逸彦編 アイヌ語・日本語辞典稿)』(1992)には、 wen iyamokte「びっくりして、大いにおどろいて」とある。

<sup>(</sup>B) 松島さんによると、シレラムシカリ わかいもの sireramusikari WAKAIMONO とは「道のわからない若いもの」「部落のわからない若い者」である。主人公自身が道に迷ったのでなく、家主からみて「初めて見る若者なのでどこの村出身なのかがわからない」というように言った。

ウウェネウサラ ネー わかいもの トゥラー

uenewsar ne WAKAIMONO tura

よもやま話をその青年と一緒に

キア コロカー、は一、あんまり イタッカ ソモキー、ノ

ki a korka ANMARI itak ka somo ki, no

したけれども、あんまり

ウウェネウサル アンコロ アナンネ

uenewsar=an kor an=an hine

よもやま話もしないで

カッケマッ スケヒネ イペアンしたり

katkemat suke hine ipe=an SITARI,

婦人が料理をして食事をしたり

キー ヒネ オカアンペネー コロカ

ki hine oka=an pe ne korka

していたけれども

ネブ、、ア、、、出るか

nep. . DERUKA

何が、、出るのか

わかんないもんだから

WAKANNAI MON DAKARA...

わからずに

エアラキンーネ イヨ、イヨクンヌレ アンー コル、カ

earkinne iokunnure=an korka

本当にあきれていたけれども

アピシーカ ソモキノ アナン アイネ

a=pisi ka somo ki no an=an ayne

私は尋ねないでいると、とうとう

ピッカ スケー キーイネ こんど チァ オルン

pirka suke ki hine KONDO cip orun ちゃんと炊事をして「もらうため」、舟のところへ

ホシ、ホシピアンイネ さかな、ら、、チェブ

hosipi=an hine (SAKANA, U.) cep

私は戻って魚を

アコロ ワー、はー、、エカンヒネ

a=kor wa ek=an hine

運んで来て

アコロパレ アクス

a=korpare akusu

それを差し出すと

エアラキンネ エヤイコプンテッパ コロ ス、、

earkinne eyaykopuntekpa kor

大喜びで

ネ カッケマッ スケー ヒネ

ne katkemat suke hine

その婦人が料理をして

ピッカ スケー キーイネ

pirka suke ki hine

素晴らしい料理をして

<sup>(14)</sup> 松島さんがアナンネをゆっくり発声すると、アナンヒネ an=an hine となる。

<sup>(15)</sup> 松島さんによると、この家の男たちが猟に行かないので食べ物が少なくなっていた。そのことを主人公があき れて、自分の食料を舟に取りに行くのだという。

アエ したり アキコロ

a=e SITARI a=ki kor

私はそれを食べたり

ネ わかいもの カー イペイネ

ne WAKAIMONO ka ipe hine

その若者も食事をして

ホッケ ワ イサム

hotke wa isam

横になってしまった。

チセコロ ニッパカー ホッケワ

cise kor nispa ka hotke wa

その家の主人も横になって

イサム ルウェネ ヒネ こんどー ピッカー

isam ruwe ne hine KONDO pirka

しまって、そして立派に

アエホッケイ、 アカルペネクスー

a=ehotke a=kar pe ne kusu

寝床が作られたので

オロタ アシヌマカ レウシアン、、 ヒネ

oro ta asinuma ka rewsi=an hine

そこに私も泊まって

クンネイワ ホ、ホプニアン ヒネ こんど

kunneywa hopuni=an hine KONDO

朝、私が起きると

ネー カッケマゥ スケッ ネクス

ne katkemat suke p ne kusu

婦人が料理をしたので

ア エイネ こんどー、、ア コロカ アウニ ウン

a=e hine KONDO a korka a=uni un

私は食べていたのだけれども、自宅へ

ホシピアン ルスイー カ ソモキノ シレラムシカリー

hosipi=an rusuy ka somo ki no sireramusikari 帰りたいとも思わずに道のわからない

エキュネ、ア、、アラパアン ルスイ

ekimne arpa=an rusuy

山の方へ行きたくなった。

エアラキンネ エタカスレ アラパアン ルスイ

earkinne etakasure arpa=an rusuv

とても強く行きたくなった。

ネウン ヤイトモイタカ、、ヤヤッカ

neun yaytomoytak a=ki (ya) yakka

どうにか自分に言い聞かせても

ウ、ウェン ル ウェネー ヒネ こんど、は一、オロワノー

wen ruwe ne hine KONDO orowano

駄目だったので、それから

<sup>(16)</sup> 松島さんによると、アエホッケァ a=ehotke p と言おうとした箇所であるが ヮ p 「もの」が落ちた。別の言 い方でアエホッケウッケ a=ehotke uske「私が寝そべるところ」と言えるが、ここで聞こえるアエホッケイ a=ehotke iとは言わないという。

<sup>(17)</sup> 松島さんにこの箇所をゆっくり発音してもらうと、ヤイトモイタッ アキ ヤヤッカ yaytomoytak a=ki yayakka と言い、「ヤヤッカはヤッカと同じ意味で、厚賀ではどちらの言い方もあった」という。今まで報告した松 島さんの文芸6編の中にヤヤッカ yayakka という語形は見られず、この文芸に数箇所現れる語形である。一応、 (ya) yakka と表記して今後も検討を続ける。

アシュク ペー エキム、、キムタ アエイワンケブ アセー

asivukpe kim ta a=eywanke p a=se.

防寒着と山で使う道具を背負って

アコロカネ オマナナンペネクス

a=kor kane omanan=an pe ne kusu

持ちながら行ったものなので

ネワ アンペー アセカネ こんど

ne wa an pe a=se kane KONDO

そういったものを背負って

エキムネアン ルウェネ ヒネ アー、

ekimne=an ruwe ne hine (a)

山へ狩に行って

ペットゥラシ トオー シレラムシカリ

"pet turasi too sireramusikari

「川沿いにはるか遠くへ道もわからずに

ヒナクン エネ アッパアンルスイ ヒネヤ

hinak un ene arpa=an rusuy hi ne ya"

どこへ私は行こうとしてるのか?」

セコロ ヤイヌアン コロ ネウン

sekor yaynu=an kor neun

と私は思うと、なんとか

ヤイトモイタク アン ヤヤッカ

yaytomoytak=an (ya) yakka

自分をなだめても

ア、ア、、ウェン ルウェネヒネ

(a, a, , ) wen ruwe ne hine

駄目だったので

ネ ペットゥラシ へー、、トオー キュタ

ne pet turasi too kim ta

その川沿いに遠い山に

アョパアンー アイネ ネ ナイ、こんど

arpa=an ayne ne nay, KONDO

行ったあげく、その沢に

ポロー ペッ サンワ アン ペネブ

poro pet san wa an,, pe ne p

大きな川が下がっていたのだが、

そこ、、オロウン ネー ナイ トゥラシ アラパアナッ

oro un ne nay, turasi arpa=an a p

その沢沿いに登って行ったのだが、

ネー ポロペッ オルン ネー ナイ、あれ、、らー、、

ne poro pet orun ne nay,,

その大きな川の所の沢、

ポロナイさ、オシパ、、オ、シレパレ した

poro nay SA, osipa, osirepare SITA

大きな沢に到着した

もんだから こんど それから

MONDAKARA KONDO SOREKARA

ものだから、それから

<sup>(18)</sup> 松島さんによると、アシユッペ a-siyuk-pe は「防寒用に山で着るまかないのこと」である。

<sup>(19)</sup> 松島さんによると、アエイワンケッ a=eywankep は「弓矢などの狩猟具」である。

② オシレバレと聞こえるが、松島さんに意味を尋ねると「ボロベッ オルン シレバアン poro pet orun sirepa= an「大きな川に私は着いた」と言い直した。

その ポロ ペットゥラシ こんど スイー

SONO, poro pet turasi KONDO suy

その大きな川沿いに登って、また

アラパ アンー アイーネ ヒナクン カ アラパアニカ

arpa=an avne hinak un ka arpa=an hi ka

行った結果、どこに着くのかも

アエラムペウテッノ エアリキンーネ アプカサンー ヒネ

a=erampewtek no earkinne apkas=an hine

わからずに登って歩いて

アョパアン ペネクス シンキアン カ キ

arpa=an pe ne kusu sinki=an ka ki

行ったものなので私は疲労もした。

ア サンニ インカラナクス

as=an hine inkar=an akusu

私が立ち止まって眺めていると

トオー キュタ ペッサムタ

too kim ta pet sam ta

はるか遠くの川のほとりで

オアラ スプヤ アッ ヒ アヌカラ ルウェネヒネ

oar supya at hi a=nukar ruwe ne hine

煙が立ちのぼっているのを見て、

オロワノ ペットゥラシ アラパ アナイーネ

orowano pet turasi arpa=an ayne

それから川沿いに行くと

マッアンペクス エネアン キム タ

"mak an pe kusu ene an kim ta

「なぜ、このような山中に

スプヤ アン ルウェネヤ セコロ

supuya an ruwe ne ya" sekor

煙が立っているのか」と

ヤイヌアン コロ オロウン アラパアンー アクス

vavnu=an kor oro un arpa=an akusu

思いながら、そこへ行くと

ソンノ カー ピリーカ ポンチセ アンイネ オラーノ

sonno ka pirka pon cise an hine orano,

とても美しい小さな家があって

オロワ メノコ ワッカタ ルウェヘ ルー、、

orowa menoko wakkata ruwehe

それから女が水汲みをした足跡が、

ポンノ ル、ル、ア、ウパッ アッ ペネクス

ponno (ru, ru, a,) upas as pe ne kusu

少し雪が降っていたので

ルウェヘ アン ルウェネ オラ サマケタ

ruwehe an ruwe ne ora samake ta

その足跡があって、そのそばに

セター、ポロ セター ルウェヘ カリカリ

seta, poro seta ruwehe karikari

大きなイヌの足跡が方々にあった。

②1) 松島さんによると、アサンニと聞こえる箇所はアサンヒネ as=an hineである。後日の言い直しではアサンニネ/asannine/とも聞こえた。松島さんの発音ではヒネ hine の h あるいは hi が落ちて ne のみ発音されることがしばしばであるが、この文芸中でアサン as=an に後続した場合はネ/ne/よりニ/ni/に近い。

②② 松島さんによると、ルウェヘーカリカリ ruwehe karikari は「足跡があっちもこっちもある」、ハウェヘーカリ

a=sitoma no kane menoko ruwehe

恐ろしくも、女の足跡と

セタ ルウェヘ はー、ポロンノ アン ルウェネヒネ

seta ruwehe poronno an ruwe ne hine

イヌの足跡がたくさんあって、

シチンカラ、、アサンニ、インカラナクス

(sicinkar...) as=an hine inkar=an akusu

私が立って見いていると

ポンペカ チセ ソイタ テッテルケ

ponpe ka cise sov ta tetterke

赤ちゃんも家の外に、ヨチヨチ歩きの

ポン わらしが アン ルウェネ ヒ

pon WARASI GA an ruwe ne hi

小さな子供がいた足跡を

アヌカル コロ コパクン アラパアンー アクス

a=nukar kor kopak un arpa=an akusu

見ながら、そちらへ私が行くと

ポロセタ アン、アン ヤクン イ、イェミク

poro seta an (an) yakun (i,) i=emik

大きなイヌがいたのなら私を吠える〔はずだが〕

シレラムシカリプ ヌカル

sireramusikari p nukar

知らない者を見た

するもんの、、イイェミッカ ソモキ

SURUMONNO, i=emik ka somo ki

はずなのに吠えられなかった。

セタ ルー、、 ポロンノ アン コロカ

seta ruwehe poronno an korka

イヌの足跡がたくさんあったが

イイェミク カ ソモキ ノー

i=emik ka somo ki no

吠えられることもなく

ネー チ、、ポンチセ オ、ルン

ne pon cise orun

その小さな家のところへ

サマケタ アラパ アナクス

samake ta arpa=an akusu

かたわらに私が行くと

ネ ポン テッテルケ ポンわらし カ

ne pon tekterke pon WARASI ka

その小さな、ヨチヨチ歩きの子供も

カリ hawehe karikariは「声が響く」である。アイヌ語辞典類では、中川裕『アイヌ語千歳方言辞典』草風館 (1995) に「【動 1 】 (目が) 丸くなる」、田村すず子『アイヌ語沙流方言辞典』草風館 (1996) に「【自動】 [kari-kari 動き回る・(重複)] (次の表現の中で) (背負い荷に)にひっかかる」、萱野茂『萱野茂のアイヌ語辞典』三省堂 (1996) に「響く」、奥田統己『アイヌ語静内方言文脈つき語彙集 (CD-ROMつき)』札幌学院大学 (1999) に「【1項動詞】ブラブラぶら下がる」とある。

② 松島さんによると、アサンワ インカラアニケ as=an wa inkar=an hike「私が立って見ていたところ」と言うつもりであったという。

<sup>(24)</sup> 松島さんによると、セタルウェ〜 seta ruwehe「イヌの足跡」と言いよどんだ箇所である。ルウェ、〜 ruwe, - he は「〜の足跡」であり、「〜の道」とは訳せないという。

チセ オルン、、聞いたことある?

cise orun. KIITA KOTO ARU?

(家のところ、、聞いたことある?)

[聞き手:ない。]

は一、チセオルン アフンワ イサム ルウェネヒネ

cise orun ahun wa isam ruwe ne hine

家のところに入ってしまって、

は一、シムシッカアン ら一、、ア コロカ

simusiska=an a korka

私が来訪を告げる咳払いをしたけれども

ネッカ ソイネーカ ソモキ ルウェネヒネ こんど

nep ka soyne ka somo ki ruwe ne hine KONDO 誰も外に出て来なかったので

アフナン ネー インカラニケ ソンーノ

ahun=an hine inkar=an hike sonno

そこに入ってみたところ本当に

カムイ コラチアン ポン メノコ ネ ノイネ

kamuv koraci an pon menoko ne novne

神のような娘のように

アラムプ ネー ポン わら、、

a=ramu p ne pon (WARA,,)

思えるものが小さな

テッテルケ ポン わらし キシマ イネ

tekterke pon warasi kisma hine

ヨチヨチ歩きの幼い子供を抱いて

ソンノ チッコロ アンペ ネ ノイネ

sonno cis kor an pe ne no noyne

本当に泣きながらいたらしいと

イラムアン ネ アフナンイネ

iramu=an hine ahun=an hine

思って私は入って

シムシッカ アナクス ふー、ポンメノコ

simusiska=an akusu pon menoko

オトピー チスーラ、ライェ ヒネ

otopi cisuraraye hine

来訪を知らせる咳払いをすると娘は

その髪をかき分けて

イヌカンネ こんどー アクス

i=nkar hine KONDO akusu

私を見ると

ソンノ ポカ チッコロ アンペ ネーノイネ

sonno poka cis kor an pe ne noyne

やはり本当に泣いていたらしく

② 松島さんが聞き手に質問している箇所である。

<sup>(26)</sup> 松島さんによると、チスラライェ cisuraraye は「前髪を顔全面にたらして下向き加減で泣いていた女が来訪 者を見るために手で前髪を分けている動作のこと。男女の区別なし。髪の毛以外を分けることには言わない」と 説明しているが現時点では詳細不明である。

イラムアンペ ネクス こんど

iramu=an pe ne kusu KONDO

私は思ったたのでその後

ウウェナンカラァ アンー したり、キー、でも、

uerankarap=an SITARI., ki, DEMO

互いに挨拶をしても

それでも チッコロ アン ルウェネヒネ

SOREDEMO cis kor an ruwe ne hine

彼女は泣いていた

クス ア エヤモゥテッネクス

kusu a=eyamokte p ne kusu

ため、私は不審に思ったので

エネアン キムタ マーカナク エイキワ

"ene an kim ta makanak e=iki wa

「このような山の中でおまえはどうして

エネ ポンペカ エコロ カネー エネ ポンチセ

ene, ponpe ka e=kor kane ene pon cise

このように赤ん坊を持って小屋

オッタ エアン ルウェヘ アン マ、

or ta e=an ruwe he an wa

に暮らしているのか?

ヒナクン メノコ エネ ル、ポンメノコ

hinak un menoko e=ne (ru) pon menoko

お前はどこの娘

エネ ルウェネヤー セコロ アコイピシ アクス

e=ne ruwe ne ya" sekor a=kopisi akusu

なのか?」と私が尋ねると

泣いて泣いて、泣いたあげく

チサ チサ チサ チサ コロ アナーイネ

cis a cis a cis a kor an ayne

エネ イタキ アシヌマ アナクネ

ene itak hi "asinuma anakne

このように言った。「私は

イシカル、、コタン コル ニッパ ポホ

Iskar, , kotan kor nispa poho

マチヒ アネイネ アナナメ macihi a=ne hine an=an a p

イシカリ村の旦那さんの息子

エアラキンネ アシヌマ アナッネ あんと、

earkinne asinuma anakne ANTO.

の妻でありましたが

ユペ、ユペった、あ、ユーペちったべかな?

まったく私というのは、

Yupe, Yupet TA, A, Yupet ITTABEKANA? (ユペッと言ったかな?)

②) 松島さんによると、ウウェナンカラッアンはウウェランカラッアン uerankarap=an の言い誤りである。

<sup>(28)</sup> エヤモゥテ eyamokte 【2項動詞】~を不審に思う。~を気にする。~を不思議に思う。~を疑問に思う。/ イヤモゥテ iyamokte 【1項動詞】不審に思う。気になる。不思議に思う。疑う。

② 松島さんによると、アコイビシと聞こえる箇所はアコピシ a=kopisi と言うつもりであった。

「聞き手:最初、一番最初、ユペツって言った。]

うん。あの、この男の

[聞き手:男ね。]

男はな。

[聞き手: うん。]

オカアンペ アネヒケ エアリキンネ

oka=an pe a=ne hike earkinne

siwto a=onaha ka a=unuhu ka

イネアッ クスー アオナハカ、、

ine a p kusu (a=onaha ka EHEN,,) シウト アオナハカ アウヌフカ

は一、イシカラ エト、エトコ ウン コタンコル だか、 イシカリの先にある村の Iskar etoko un kotan kor DAKA, ニ、ニッパ、コタン コル ニッパー でないけども nispa, kotan kor nispa DENAIKEDOMO 村長ではないけども ニッパ サニー アネワ アユピヒカ アンー 長者の子孫が私でして、兄も nispa sani a=ne wa a=yupihi ka an アアキヒカ アン アウヌフカ アン a=akihi ka a=unuhu ka an 弟も母もいて アオナハカカ アンワ オカアンペネイケ a=onaha ka an wa oka=an pe ne hike 父もいて暮らしていたところ エネ コタンコル ニシパー オロワ このように村長から ene kotan kor nispa orowa アエー、、エトゥンワ ア、アユピ ウタリカ 嫁に欲しい〔申し出に〕兄たちも a=etun wa a, a=yupi utari ka エラム、オッマパー アウヌフフ アオナハカ キワ 同意した。両親も同意して eramuosmapa a=unuhu a=onaha ka ki wa アイコラルワ オロタ イトムヌカラ アンイネ 私は貰われて、そこで結婚して a=i=korar wa oro ta itomnukar=an hine

暮らしていたところ、まったく

なんとまあ、

姑の父も母も

イヨマッワ エアラキンーネ

i=omap wa earkinne

私をかわいがって本当に

ネッカ アテケカレ カ ソモキノー

nep ka a=tekekare ka somo ki no

何も仕事もさせられずに

ネ シウト アウヌフ スケヘネ

ne., siwto a=unuhu suke hene

姑の母が料理とか

ネプネヤッカ キプネクス

nep ne yakka ki p ne kusu

何でもするので

イトムテ レス イピッカレスー、アー、、アーキレヒネ

i=tomteresu i=pirkaresu a=kire hine

私は大事に大事に養われて

アナンペ アネー アクス ヘントマニワーノ

an=an pe a=ne akusu hentomaniwano

暮らしていましたがいつの頃からか

ホンコロ アニ アンワ、アナンペ

honkor=an hi an wa an=an pe

私が妊娠していたのですが

アシウトー アチャハ エアルキンネ ニー ピョカ

a=siwto acaha "earkinne ni pirka

舅の父親が『ほんとに焚き木のよい

ウッケ アン ルウェネ クスー、、アエパカッヌ ナー

uske an ruwe ne kusu a=epakasnu na"

場所があるから教えてあげるよ』

セコル ハウェアン ルウェネヒネ こんど

sekor hawean ruwe ne hine KONDO

と言って

アトゥラヒネ エネアン ヒナクン エカンニ、、

a=tura hine ene an hinak un (ek=an hi,,) 連れられてどこかへ

ネウン アルキアン ヤヤッカ

neun arki=an (ya) yakka

どらにかやって来ても

ネ ニー ピリカ ウシケー カ イサム ノ

ne ni pirka uske ka isam no

その焚き木の良いところもなくて

キアクス タパン ポンチセ オルン

ki akusu tapan pon cise orun

来たところ、この小屋へ

③の 松島さんによると、アテケカレ a=tekekare は「炊事、掃除、薪拾いなどの仕事」のことをいう。

⑶ モニターの方から、イトムテレス イピッカレス アキレ a=tomteresu i=pirkaresu a=kire の可能性を示唆さ れたが、今のところ判断がつかない箇所である。

③ 松島さんがゆっくり発声すると、ヘントムアニワノ hentomaniwano となる。

<sup>(33)</sup> 松島さんはアチャ、-ハ aca, - ha について「下の言葉で父親を意味する。つい、それが出た。下の言葉は 静内の田原出身の叔母から聞いた」という。この文芸中ではシウト siwto に連なる言葉として、アチャハ acaha 以外にニッパ nispa、カッケマッ katkemat、エカシ ekasi、アオナハ a=onaha、アウヌフ a=unuhu が出現する。 なお、厚賀地域の親族名称については家庭ではアイヌ語を禁じられていたので思い出せないものが多いという。

③4 松島さんによると、ニー ピッカ ウッケ ni pirka uske「木がよく群生しているところ」は薪に適した木がた くさんある場所のことをいう。

アシウト アチャハ イトゥライネ テタ アンアン

アシヌマ ニ ピッカ ウッケウン アッパアンワ

"asnuma ni pirka uske un arpa=an wa

『わしは焚き木の良いところへ行って

ホシピアン ワ アエプ、パカッヌ ナー セコロ

hosipi=an wa a=epakasnu na" sekor

帰って来てから、教えてやるからな』と

ハウェアンコロ ヒナクン アラパワ イサム オラー、

hawean kor hinak un arpa wa isam ora

言うと、どこかへ行ってから

もら、エキサムルウェネ、ネッネクス、、

もら帰って来なかったので

MOU ek isam ruwe ne. (ne) p ne kusu アフナラ アチャハ アチャハ セコロ

a=hunaraa "acaha acaha" sekor

私は探しました。『お父さん、お父さん』と

ハウェアナンコロ チサン コロ

hawean=an kor cis=an kor

アフナラ イケカ アエオムケンワ、もら、

a=hunara hike ka a=eomken wa MOU.

言って泣きながら

探しても見つからなくて、

食べ物でも着る物でも、

この小屋に私を置いて

ウサ アエブ ネヤッカ アイ、アミプ ネヤッカ

usa aep ne yakka (ai) amip ne yakka,

エネアン ポンチセ オッタ イヤヌワ

ene an pon cise or ta i=anu wa

イサム ルウェネー セコロ チシ コロ

isam ruwe ne sekor cis kor

ネ ポンメノコ ハウェアン ルウェネ

ne pon menoko hawean ruwe ne

へー、エアラキンネ ウェニョンクンヌレ アキー

earkinne wen iokunnure a=ki

非常に私は驚いた。

ははー レウシアン した ウッケタ

"HAHA rewsi=an SITA uske ta

アン コシマチー エネ アキモルラ

an kosmaci ene a=kimorura

ルウェ だな セコロ ヤイヌアン コロ

ruwe DANA" sekor yaynu=an kor

「はは一、なるほど私が泊まったところに

いたお嫁さんがこうして山へ運ばれて

いなくなってしまった」と泣きながら

その小さな女が言ったのであった。

来たのだ」と思いながら

③5)松島さんによると、アエオュケン a=eomken は娘自身が「獲物をとれない」ことではなく、「父親を見つける ことができなかった」という意味で用いたという。モニターの指摘で確認をした箇所。

イヨクンヌレアン コロ アナンペ、 だ、アクス、

iokunnure=an kor an=an pe, DA, akusu, 私はあきれていると、

テタ アナナッ ケスクラン アンコロ

"te ta an=an akus kesukuran an kor

「ここに私がいると毎晩、

キムンカムイ オルペレリセワ サンー コロ

kimun kamuy orpererse wa san kor

クマがウオーとうなり声を上げて下りると

ハー、ア、アユピー テケカルーペー

(ha. a.) a=vupi tekekar pe

私の兄が手作りしたものが

ホロケウ カムイ ウー、ポンポンペ

horkew kamuv pon pon pe

オオカミの神様のとても小さいもの

ネ、ネアヤッカー ポニアニワノ アエシノッテ

ne a yakka poni aniwano a=esinotte??

であっても幼い頃からそれで遊ばせました。

テケカル ワ アエシノッテ コロ アアン、、

tekekar wa a=esinnotte?? kor an=an

それを作って私に遊ばせながらいました。

それで、アシ、ア、、シネポ マクネポ アネプネクス

SOREDE sine po matnepo a=ne p ne kusu

私は一人娘ですから

エアッキンネ アユピウタリ イピリカレス

earkinne a=yupi utari i=pirkaresu

とても兄たちが大切に

イトムテレス キワ こやってして

i=tomteresu ki wa KOYATTE SITE

大事に育ててくれて

ホロケウカムイ テケカルワ イコレアプ、、

horkew kamuy tekekar wa i=kore a p

オオカミの神様を作ってくれたのだが

イトムヌカラアン するとき ポニワノー

itomnukara=an SURU TOKI "poni wano

私が結婚するときに『小さい頃から、

エエシヌッテ ワ アンペネクス ア、エコロ ワー

e=esinupte wa an pe ne kusu e=kor wa

身に付けていたのだから、お前が持って

③ 似た言葉が田村すず子『アイヌ語沙流方言辞典』草風館 (1996) にオッペレレ orperere 「【自動(?)】 [擬声] (熊が苦しがって)ウオーとうなり声を上げる」とある。松島さんのいう言葉には「クマが苦しがる」というニュ アンスはなく、ゆっくり発声してもらうとオルペレッセと聞こえる。

⑶ 松島さんによると、テケカルベ tekekarpe とは「刺繍の入ったもの、木彫り、団子等の手作りの品」をいう。

⒀ 松島さんによると、妹のカシカムイ kas kamuy「守り神」となるように兄が魂を込めて作ったものであると いう。

③ この行の冒頭はネヤヤッカと聞こえていたがモニターから指摘されて松島さんに伺うとネアヤッカ ne a yakka と答えた。ポニアニワノ poni aniwano は「小さい(幼い)頃から」となり、アニワノ aniwano の例文として、 ホッキ ヌマン アニワノ アン ルウェ ネ hoski numan aniwano an ruwe ne 「一昨日からいるのです」と 言った。アエシノッテの語幹をノッ sinot と判断して、そのようにローマ字表記した。

御 松島さんによると、アアン a=an「私は座っている」ではなく、アナンペ アネ ルウェネ an=an pe a=ne ruwe ne と言うつもりであったという。

ネウン ハワシ フマシ ヤッカ

neun hawas humas vakka

なにかあって大騒ぎになっても

イテキー エオスラ ナー セコロ アユピー

iteki e=osura na" sekor a=yupi

けして捨てるなよ』とお兄さんが

ハウェアンコル キッネクス アウッソロオマレ ワ

hawean kor ki p ne kusu a=upsoromare wa 言ったので私は懐に入れて

ヒナクン アラパアン ヤッカ アウッソロオマレ ワ

hinak un arpa=an yakka a=upsoromare パーティ オマナナンペ アネー アデ どこへ行っても懐に入れて

patek omanan=an pe a=ne a p

いつも持ち歩いていたものだったが、

ネ テタ レウシアンー アイホッパー

(ne.) te ta rewsi=an. a=i=hoppa

ここに私が泊まって置いてきぼりに

アシウト ニッパ キー クンネイワ クンネ アンコロ

a=siwto nispa, ki. (kunneywa) kunnean kor

**舅の日那さんがした。夜になると** 

エネ キムン ペー、ペールタンケ ペレルセ コロ

ene kimunpe (pertanke, ) pererse kor

こうやって獣がウオーっとうなりながら

サン ハウェアニ ソンノ シゥヌアンー カ

san hawe ani sonno siknu=an ka

下りてくる声で本当に生きた心地も

アエラムシカリノー キマテクアンー せいだもの

a=eramsikarino kimatek=an SEIDAMONO

しないで怯えていましたが、

セタカ イサムペ セタ ミカ ミカ ミワー

seta ka isam pe,seta mik a mik a mik a wa イヌもいなかったのにイヌが吠えに吠えて

ネー キムンペー オケウェランケ

ne kimunpe okewe rankeke

その獣をいつも追い返した。

ケスクラナンコル キーコロ アナンペ アネー

keskuran an kor ki kor an=an pe a=ne

毎晩、そのように過ごしていました。

セタカ イサムペ マーク、、ネワ

seta ka isam pe, mak ne wa

イヌもいなかったのにどうして

エネ セタカ ミク、、ワ イカオピウキヒアン

ene seta ka mik wa i=ka opiwki hi an

このようにイヌも吠えて私を守ってくれるのか

セコロ ヤイヌアンコロ アウプソロ

sekor yaynu=an kor a=upsoro

と思いながら懐に

<sup>(41)</sup> 松島さんによると、この行の意味は「なにか恐ろしいことが起きても」と訳すこともできるという。

<sup>(42)</sup> 筆者は、娘が怯えているのは「下りてきた獣」と解釈していたが、モニターの方から「獣の下がる声でもって」 とご教示あり、「獣の声」が怯えの対象とわかった。

<sup>(43)</sup> 聞き取れなかった箇所だが、モニターのご教示で松島さんから確認がとれてローマ字表記した。

アテケオマレ アクス ネー アエシノッワ、、

a=tekeomare akusu ne a=esinot wa.

手を入れると私が遊んで

カシカムイネ アコル ペネクス

kas kamuv ne a=kor pe ne kusu

守り神として私が持っていたので、

イサム ルウェネ そしてー

isam ruwe ne SOSITE

それが消えて、そして

カムイー アラパワ ホシピワ イサム コロ

kamuy arpa wa hosipi wa isam kor

クマが行って帰ってしまうと

こんど スイ アプ、、アウブソロタ アンルウェネ

KONDO suy (a=p,,) a=upsoro ta an ruwe ne また私の懐にあったのでした。

エアラキンネアン イヨクンヌレ アキー

earkinnean iokunnure a=ki

とても私は驚きました。

おかげで エネー シャヌ アンワ タネタ パッノ

OKAGEDE ene siknu=an wa tane ta pakno

そのおかげでこのように生きて今まで

エーカン ルウェネ オラー、あー

ek=an ruwe ne ora

やってこられました。それから

ヌワッアン ペネクス ポンペカ アンペネクス

nuwap=an pe ne kusu ponpe ka an pe ne kusu

私は出産して赤ちゃんも生まれたので

ポーヘネー エアッキンネアンー エネワポカ

po hene earkinnean ene wa poka

なおのこと、本当になんとか

ヤイカレアニーカ イサム

vavkare=an?? hi ka isam

どうすることも出来なかった。

オラ ホシピアンーカ エアイカッ ヒナクーン

ora hosipi=an ka eaykap hinak un,

それから私は帰ることも出来ない、どこに

ホシピアン ウシ、ウシケカ アエランペウティ ペネクス

hosipi=an uske ka a=erampewtek pe ne kusu

帰るところもわからないので

エネ アナン ルウェ アネアブ

ene an=an ruwe a=ne a p

このようにいたのですが、

エネ アイヌヌカョカ アエラムシカリノ アナプ

ene aynunukar ka a=eramsikarino an a p

こうやって人を見ることもなかったのですが、

ヒナクワ エク わかいもの エネ

hinak wa ek WAKAIMONO ene.

どこからか来た若者がこうして

<sup>(4)</sup> 松島さんによると、クマを吠えるイヌの声が聞こえている間は女の懐から木彫りのオオカミがなくなっている という。

<sup>(45)</sup> 松島さんによると、この行の意味は「どうすることも出来ない」と訳すというので話者の日本語訳を記した。 同じ意味でヤイカレアン カ エアイカッ yaykare=an ka eaykap とも言えるという。

イタスケタロ ルウェアン セコロ ハウェアンコロ

i=tasuketaro ruwe an" sekor hawean

私を助けてくださるのでしょうか?」と言って

ポーヘネ チサ チサ チサ コル キー

kor po hene cis a cis a cis a kor ki

なおいっそう泣きに泣いた。

エアラキンネアン ウェニョクンヌレアン コロ

earkinnean wen iokunnure=an kor

私はとても驚きながら

ネー アンチカラ カ ポロー アペ、、

ne ancikar ka (poro ape, , )  $^{^{(46)}}$ 

その夜も

ニナアンワ エカンワ ポロ アペアリアン イネ

nina=an wa ek=an wa poro apeari=an hine

焚き木を持って来て大きな火をたいて

ほんと セトルセセッカアン ヒネ ホッケアン

HONTO setorsesekka=an hine hotke=an

背中あぶりして横になった。

ソンノ モコロクルカ アンコロ ソンノポカ sonno mokorkurka an kor sonno poka

カムイ ペレリセコロ サナウェ アヌー コロ

真夜中になると本当に

kamuv pererse kor san hawe a=nu kor

キュタ アエイワンケッ アコロワ

クマが大声を出しながら下りる声を聞くと

kim ta a=eywanke p a=kor wa

アナンペネクス ネウン

山で使う道具を持って

私は恐ろしいとも思わずに

an=an pe ne kusu neun

いたので、なんとも

アシヌマ アナッ ネッ アシトマカ ソモキノ

asinuma anak nep a=sitoma ka somo ki no

アナン アッ ソンノカ セタカ イサムペ

an=an a p sonno ka seta ka isam pe

マッカ マッカ ネワ ネ セタ ミゥワ mak ka mak ka ne wa ne seta mik wa

どうにかこうにかなって、そのイヌが吠えて、

いたのだが、確かにイヌもいなかったが

ソンーノ アルコテルケ セタ トゥラノ アルコテレケ

sonno ar ukoterke seta turano arukoterke

本当にイヌと共に取っ組み合う

カムイ ペレリセ セタミッ ハウ

kamuv pererse seta mik haw

クマのうなり声とイヌの吠える声が

ソーンノ アシトマノカネ シラン

とても恐ろしいものであった。

sonno a=sitoma no kane siran

<sup>(46)</sup> 松島さんによると、後で言うべき文句を先に言ったので次行から言い直した。

<sup>(47)</sup> 松島さんによると、12時も過ぎた真夜中の頃を指す言葉であるという。

オラ カムイ アナッネ ホシピ スイ

ora kamuv anakne hosipi, suv

それからクマの方は戻って、また

オルー ペレレセ コロ ホシーピー シリ

orpererse kor hosipi siri

大きな声を出しながら戻って行った様子を

アヌ ペネクス こんどー ネー セタハウーカ

a=nu pe ne kusu KONDO ne sata haw ka

感じたので、そのイヌの声も

イシ、イサム オラ キーイネ ホルケウ カムイ

isam ora ki hine ne horkew kamuv

なくなったので、そのオオカミの神が

メノコ エプンキネー ワ アンー ルウェだな セコロ

menoko epunkine wa an ruwe DANA sekor

女を守っていたのだなと

ヤイヌアンペネクス ポーヘネ キワ

yaynu=an pe ne kusu po hene ki wa

私は確信して

ショペケレヒ アテレ ヒネ ショペケレネ

sirpeker hi a=tere hine siripeker hine

明るくなるのを待って朝になると

ネン ポンメノコ スケイネ イペアン ヒネ

ne pon menoko suke hine ipe=an hine

その娘が炊事をして、私たちは食事をして、

こんど オラ ネ キュタ アエイワンケッ アセイネ

KONDO ora ne kim ta a=eywanke p a=se hine それから私は山の道具を背負って こんど ルウェヘ アカリ ソンーノ セター ルウェヘ

KONDO ruwehe a=kari sonno seta ruwehe

その足跡を辿った。本当にイヌの足跡と

ウェン キムンペ ルウェヘ チコー カリカリ

wen kimunpe ruwehe cikokarikari

悪い獣の足跡があちこちに散らばり、

ウコテレケパコロ トオ、、ヘントマニワノ

ukoterkepa kor too,, hentomani wano

取っ組み合うと、遠くで途中から

アル、、オケウェワ アラパ オラ ホシピ ルウェヘ

ar okewe wa arpa ora hosipi ruwehe

全く追っ払ってから、帰った足跡が

アン ルウェネヒネ ケセアン、マム

an ruwe ne hine keseanpa=an

あって、私は追いかけた。

ルウェヘ アカリヒネ アラパアナクス ソンーノ

ruwehe a=kari hine arpa=an akusu sonno 足跡を辿って行くと、本当に

⑷ 松島さんによると、チコカリカリ cikokarikari「ゴタゴタする」であり、クマとオオカミの足跡が入り乱れて 残されている様子をいう。註23と関連。

<sup>49)</sup> 松島さんによると、ヘントマニワノ hentonani wano の意味を通常「いつ頃からか(時間)」としていたが、 ここの箇所では「途中から(距離)」と訳されたのでそれに従った。

⑸ 松島さんによると、ここはケセアンパアン keseanpa=an「私が~を追いかける」と言おうとしたが、ケセア アンパ kese a=anpa でもよいという。モニターの指摘により確認した箇所。

プンカル チセヘ ネノカネ ア、アン ウッケウン

punkar cise he neno kane an uske un

ブドウ蔓が家のようになっているところへ

アフン ルウェヘ アン ルウェネ ヒネ

ahun ruwehe an ruwe ne hine

入った足跡があって

こんど はー、オロワノ こんどー キ、キムン、、

KONDO orowano KONDO (ki, kimun, )

それからこんどは

はなれて アコイキ ルスイペネクス

HANARETE a=koyki rusuy pe ne kusu

離れて獲りたかったので

エキムネのほうさ、アラパアン ヒネ

ekimne NOHOUSA arpa=an hine

山の方へ私が行くと

こんど アンノイネ オー、オルペレレセ コロ

KONDO an novne orpererse kor

それがいたらしく、唸って

近くに私は行きたくなって山を

矢を射当てると、それが横たわったのを

迂回して私は矢を射放った。

アン ルウェ ネ ノイネ ハウェヘ

an ruwe ne novne hawehe

いるような声が

響いたので

カリカリ コロ アンペネクス こんど

karikari kor an pe ne kusu KONDO

コパク アトゥイェ イネ キム ペカ

kopak a=tuye hine kim peka

アマワッタロイネ アチョッチャ ルウェネ

a=MAWATTAro hine a=cotca ruwe ne

アチョッチャ アクス ショカ オマシリ

a=cotca akusu sirka oma siri

アヌカラ ペネクス こんど、、

a=nukar pe ne kusu KONDO...

ネー、エプンカル チ、、チセオルン

ne punkar cise orun

見たので、

その蔓の家の

コパゥアトゥイェ ヒネ インカラ アナクス

kopak a=tuye hine inkar=an akusu

近くへ私は行って見ると

ソンーノ カムイ ネクス コラチアン アヌカル

sonno kamuy ne kusu koraci an a=nukar

本当の神様であるように見えた。

ウシケか、ウシケワノー ソンノ パセカムイ

(uske KA, ) uske wano sonno pase kamuy

その場所から、本当に偉い神様

⑸ 松島さんによると、コパク アトゥイェ kopak a=tuye「~の方へ私が近づく」はコパクン アラバアンルスイ kopak un arpa=an rusuy「近くへ私は行きたい」と言いかえてもよいという。

ネヒ アエラマンノ アン

ne hi a=eraman no an

であることがわかるほどである。

カムイ ショカオマワ アンルウェネ ヒネ

kamuy sirka oma wa an ruwe ne hine

イヨクンヌレアンコロ こんど

iokunnure=an kor KONDO

私が驚きながら

神様が横たわっていて、

ウェナイヌ アネワ ネッ エラマンペカ

"wen aynu a=ne wa nep eraman pe ka 「私はつまらない人間なので何もわかりも

ソモキ コロカ エイタサ メノコー ら、、コパクン

somo ki korka evtasa menoko kopak しないけれども、あんまり娘の方へ

エトゥイェ ワ メノコ、、ポンメノコ

e=tuye wa, menoko, pon menoko お前が近寄ったので娘を

アエトゥヤシカラッ ワクス スマウネ

いたましく思って私が獲物として a=etuvaskarap wa kusu sumaw ne

アエカルル、ルウェネクス ウェンタラブ オッタ ヘネ

獲ったのですから、夢の中ででも a=e=kar ruwe ne kusu weatarap or ta hene

ヤイェシカルンカ ソモ エキヤ、ヤクン

vaesikarunka somo e=ki vakun 気づかせなかったのなら

ピッカ アノミカ エアイカッ ルウェネ

きちんと私は祈ることが出来ないのです。 pirka a=nomi ka eaykap ruwe ne

カムイ、パセカムイ エネプ エネ、

kamuy pase kamuy e=ne p, ene AHAN, 偉い神様であったのだが、このように

ヘマンタ アイヌ、 アイヌ メノコ コパゥ

hemanta avnu menoko kopak なぜ人間の女の近くへ

エトゥイェワ エネ ヤイウェンヌカレ

e=tuye wa ene yaywennukare 来て、こうして迷惑をかける

カムイ ヘネ カムイ エネプ

ne vakun makan pe kusu ne va

kamuv hene kamuv e=ne p

ネー ヤクン マッアンペ クス ネヤー

ウェンタラプ オッタ イヌカレ ソモキ ヤクン

wentarap or ta i=nukare somo ki yakun, 夢の中で私に見せないのなら

神様にでもなってしまったものだが、

それならば、どのようなわけであるか

⑸ 松島さんによると、ヤイェシカルンカ yayesikarunka 「気づかせる。教えさせる」である。「気づかせもしな い」をアイヌ語に翻訳してもらうとヤイェシカルンカ カ ソモキ yayesikarunka ka somo ki と言われたので 語尾のカ ka が助詞ではないと判断した。

ピッカ オマンテも アエヤイカブ

pirka omante MO a=eyaykap

ルウェネクス エラマン セコロ

ruwe ne kusu eraman" sekor

ハウェアナンティ こんど サーナン はー

hawean=an tek KONDO san=an

ネ ポンメノコ アン チセ ポンチセ オッタ

ne pon menoko an cise, pon cise or ta

サーナンイネ オラー ネッカ アイェーカ ソモキノ

san=an hine ora nep ka a=ve ka somo ki no アナン アイネ、 ネー アンチカラ スイ

an=an ayne, ne ancikar suy

レウシアン レウシアンネ

rewsi=an rewsi=an hine

ウェンタラッ ヤイコカヌ アンルスイ クス

wentarapyaykokanu =an rusuy kusu

ヤイ、レウシアンネ、、キアクス

(yay, ) rewsi=an hine, , , ki akusu

ソンノポカ ネ アライケッネクス こんど

sonno poka ne a=rayke p ne kusu KONDO

セタ ミッカ カムイ ハウカ イサムノ

seta mik ka kamuy haw ka isam no

アプンノ モコランペネクス、、

apunno mokor=an pe ne kusu.

ウェンタラプアナクス ネー カムイ ネクス

wentarap=an akusu, ne kamuy (ne kusu, )

コラチアンー はー、クル エッイネ、タパン

koraci an kur ek hine, "tapan

アイヌ ヘタプ、パウェトク わかいもの エネー

aynu hetap, pawetok WAKAIMONO e=ne

メノコ カシオピウキワ エエッ オラー

menoko kasi opiwki wa e=ek ora

立派な魂送りも出来ない

ことになるからわかってくれ」と

さっと言うと、私は下がって

その娘がいた小屋に

下がって私は何も言わずに

いると、その夜にまた

私は泊まって

夢見を待ちたいので

泊まっていると

確かに私が殺したものだから

イヌの吠え声もクマの声もしないので

静かに眠って

夢を見ると、その神様

のような立派なものが来て「これ、

人間よ。雄弁な若者よ。

女を救ってお前が来て

⒀ 松島さんによると、ウェンタラッヤイコカヌ wentarapyaykokanu「夢見を待つ」であり、クマの神が見せる夢 を見るためにその小屋に一泊する。

ス、スマウネ アイカラ コロカ アシヌマ アナッ

sumaw ne a=i=kar korka asinuma anak

私は獲物にされたけれども私は

ヌプリ ケスン プリ、、ヌプリケスン

nupuri kes un puri, nupuri kes un

出すそにいるものであるが

シーノ ヌプル カムイ アオナハ ネヒネ

sino nupur kamuy a=onaha ne hine

真の山の神様が私の父であって、

オカアンペ アネイケ はー、カムイオッタ

oka=an pe a=ne hike kamuv or ta

暮らしていたところ、神の世界で

アエヤコトムカッ アフナラ イケ カ イサム a=evavkotomka p a=hunara hike ka isam

妻にふさわしい女を探してもいない。

アイヌオッタ アエヤイコトム タッ アフナラクス

aynu or ta a=eyaykotomka p a=hunara akusu タパン メノコ パーク ケウトゥム ピリカ、、

人間の世界で自分にふさわしい女を探すと

tapan menoko pak kewtumu pirka...

この女ほど気立てのよい

ウタラパケアン メノコ イサムワ

utarpake an menoko isam wa

立派な娘はいなくて、

シウト ニッパカー、、 カトゥ アカラワ

siwto nispa (ka.) katu a=kar wa

エネ チセカ カル オラ コシマチ

ene cise ka kar ora kosmaci

キモルラワ こんど オイラワ アン ヒネ

kimorura wa KONDO oyra wa an hine

ホクフ ネ わかいものカー

hokubu ne WAKAIMONO ka

シウト カッケマッカ ソンノ

siwto katkemat ka sonno

エヤイコ ケウトゥムウェンテパ コロ

eyaykokewtumwentepa kor

オカシリカ アヌカラコロ、、ネンポカ

oka siri ka a=nukar kor., nen poka

舅の父親を操って

このように家も作ってから嫁さんを

山へ運んで忘れてしまって、

その夫である若者も

姑の奥さんも本当に

気落ちして

いた様子も見ながら、なんとか

<sup>😝</sup> 松島さんによると、ヌブリケスン nupuri kes un 「山すその」の後にプリウェンクル puri wen kur と言おう としたが言いよどんだ。このクマは山すそに住んで悪いことをしていたが、その父親は由緒ある偉い神であると

<sup>(55)</sup> 松島さんによると、「クマが舅に化けたのではなく、クマの神が舅の心を操って息子の嫁を山へ連れて来た」 という。

サマ アケレワ アコヨンバイ キ クス

sama a=kere wa a=koyunpay ki kusu そばで触れて、夜這いをするために

キーア コロカ はー、アイヌ テケカルペ アナク

ki a korka aynu teke kar pe anak したけれども、人間の手で作ったものには

ネプネヤッカ ラマット オワ

nep ne yakka ramat o wa 何であっても魂が入って

アンペカ アエランペウティ

an pe ka a=erampewtek いることを私は知らなかった。

パセ カムイ アネッ アエランペウテク

pase kamuy a=ne p a=erampewtek 偉い神様であったのだが知らなかった。

ユピヒ、チセカル だか、テケカル ホルケウ カムイ

yupihi (cisekar DAKA) tekekar horkew kamuy 彼女の兄が作ったオオカミの神を

ウッソロオマレワ アン ヒーカ

upsor omare wa an hi ka 懐に入れていたことも

アエランペウテッノ エネ ネー ホルケウ カムイ

a=erampewtek no ene ne horkew kamuy 私は知らないで、このようにそのオオカミの神が

はー、セタネ アン ワ ケスクラナンコロ

HA, seta ne an wa kesukuran an kor イヌになって毎晩、

イコチョッチャ イコトゥミコロワ サマ アケレーカ

(i=kocotca) i=kotumi kor wa sama a=kere ka 私に挑んで来て、そばに触ることも

エアイカッノ ケスクラアナナッ

eavkap no kesukuran an a p できないで毎晩いたのであったが

オイケシネ アイヌ わかいものカ

ovkesne aynu WAKAIMONO ka とうとう若者が

イカオパッワ エクワ エネ スマウネ

ikaopas wa ek wa ene sumaw ne かけつけて来て、こうして獲物に

アイカル コロカ アオナハ

a=i=kar korka a=onaha されたけれども、私の父や

アユピウタリカ オカ コルカ も、

エアラキンネ ア、アイコ トゥミコロ は、ワ

earkinne a=i=kotumikor wa 本当に私は懲らしめられて

イベポカ ア エアイカッノ

ipe poka a=eaykap no 食事も出来ずに〔いた〕

"kamuy e=ne p, ene makan pe kusu

『神であるお前がどうして

アイヌ メノコ エネ コパッ エトゥイェ ルウェ アン

aynu menoko ene kopak e=tuye ruwe an"

人間の女にこのように近づいたのか?』

セコロ イコパシロタ イキクキク パー キコロ

sekor i=kopasirota i=kikkikpa ki kor

と叱りつけながら私をひどく叩いて

ネイパッ ノ エネ

"neypak no ene

『いつまでもこのように

アイヌメノコ コパク エトゥイェ ヤ、ヤクン

aynu menoko kopak e=tuye (ya, ) yakun

アシヌマカ エユプウタリカ オピッタ

asinuma ka e=yuputari ka opitta

テイネモシリ アイヨテレケー ルウェ ネナ

teyne mosiri a=i=oterke ruwe ne na"

セコロ アイコ サカヨカル

sekor a=i=kosakayokar

エアラキンネ キワ こんど ネー、、はー、

earkinne ki wa KONDO ne ...

オイケッネ ネー、、チセオッタ アナンカ

oykesne ne,, cise or ta an=an ka

エアイカッ ペネクス べつに アナン ワ

eaykap pe ne kusu BETUNI an=an wa

エネ キアプ アイヌー、わかいものに

ene ki a p aynu WAKAIMONO NI

スマウネ アイカルルー だけど

sumaw ne a=i=kar DAKEDO

エチオカ エチパウェトゥ ペネクスー

ecioka eci=pawetok pe ne kusu

テイネモショ アイヨテレケ ソモキ

teyne mosir a=i=oterke somo ki

クニネ カムイノミ エチキ ヤクン

kunine kamuynomi eci=ki yakun

人間の女に近づくなら

私も兄たちもみんな

湿った世界へ蹴落としてやるぞ』

と怒鳴りつけられた。

とても怒鳴られて

とうとう、その家にいることが

出来ずに別々に暮らして

いたが、人間の若者に

私は獲物にされてしまったが

お前たちは雄弁であるから

濡れた世界へ私が蹴落とされない

ように祈ってくれたのなら

<sup>(56)</sup> 松島さんによると、「村の中で祈りの上手な人。年寄りたち」に祈ることを依頼している。女性には頼んでいないということである。

ネイ パクノ ネ、、コシマクネヤッカー

ney pakno ne, , kosmat ne yakka

オピッタ エアニ ネヤッカ セレマカ

opitta eani ne vakka sermaka

アウシ ヤクン ネッ エチコンルスイ

a=us yakun nep eci=kor rusuy

ネァ エ、、エシトマ、、エチシトマカ ソモキノー

nep (e, e=sitma, ) eci=sitoma ka somo ki no 何を食べたい、、お前たちが恐れずに エチスクァ ナンコル クスー ネノ、、

eci=sukup nankor kusu neno, .

エ、エチキ ヤクン ピッカ ナー

eci=ki yakun pirka na"

セコロ ネー カムイネ コラチアン クル

sekor ne kamuy ne koraci an kur

ハウェアン ルウェネ ヒネ

hawean ruwe ne hine

ウェニョクンヌレ アキ ウェニルシカ アキコロ

wen iokunnure a=ki wen iruska a=ki kor

こんど はー、、クンネイワ ホプニアンネ

KONDO kunneywa hopuni=an hine

こんど ネ ポンメノコ スケイネ

KONDO ne pon menoko suke hine

イペアンイネ こんど アペカ ピッカノ

ipe=an hine KONDO ape ka pirkano

a=uska hine KONDO ne pon (iwa.)

わらし アカイ ヒ、ヒネ こんど ネ メノコ はー、

アウッカ ヒネ こんど ネ ポン イワ、、

WARASI a=kay hine KONDO ne menoko

アトゥラー ヒネ サナン、サナン アイーネ

a=tura hine san=an san=an ayne

もう、も、ほんとに タネ ショトゥム クンネ

MOU, MO, HONTONI tane sirtumukunne

いつまでも、その嫁さんであっても

みんな、お前であっても背後に

私が憑いて、何かお前たちが欲しい

お前たちが生きていけるように

お前たちが祈ったらいいぞ」

と神様のようなもの人が

言ったので

とても驚いて怒りながら

朝に起床して

その娘が炊事して

食事をして火もちゃんと

私が火を消して、その小さな

子供を背負って、その女を

連れて山から下りに下りると

もう、今では夕暮れに

⑸ 松島さんによると、シットゥムクンネ sittumukunne「夕暮れ。うす暗くなること」である。

パッノ シラン コル イシカル コタヌ 、、

pakno siran kor Iskar kotan

なってしまって、イシカリの村を

アヌカン ルウェネ、、アクス

a=nukar ruwe ne, . akusu

見ると

ネ ポンメノコ ソンノ、、ポンペ アナク

ne pon menoko sonno, ponpe anak

その娘は本当に、、赤ちゃんの方は

アカイペネクス ホユブ テゥテゥ キ

a=kay pe ne kusu hoyuptektek ki...

私が背負っているので彼女はさっと走った。

ネ チセオルン アウォシマ オシ こんど

ne cise orun awosma os KONDO

その家に彼女が入った後に

アフナン アクス コタンコンニッパ ウタラ

ahun=an akusu kotan kor nispa utar

私が入ると、村長たちと

カッケマゥ ウタル ウウェカルパ イーネ

katkemat utar uekarpa hine

ご婦人たちが集まっており、

それこそ ネー メノコ はー、ルイルイパー コロ

SOREKOSO ne menoko ruvruvpa kor

その娘は再会の挨拶をしながら

チシ コロ ソンーノ キー シウト カッケマッカー

cis kor sonno ki siwto katkemat ka

泣き、姑さんも

ソンノ チッコロ コッマチー ルイルイェ

sonno cis kor kosmaci ruyruye

大泣きしながら嫁さんの体をなでて

チッサ チサ チサ ラルー キ コロ

cis a cis a cis a kor ki kor

大泣きに泣いて

オカウッケウン ポンペ アカイネ

oka uske un ponpe a=kay hine

いたとところへ私が赤ちゃんを背負って

アフナンペネクス ソンノ ポーヘネ

ahun=an pe ne kusu sonno po hene

入っていったのでなおいっそう

ネ ホクフネアン わかいもの カ

ne hokuhu ne an WAKAIMONO ka

その夫である若者も

ソンーノ チッ コル ネーわらし エシカリテ、

sonno cis kor ne WARASI Iskar TE (60),

大泣きしながら赤ちゃんとイシカリで、、

ほんーとに おおさわぎしてー

HONTONI OOSAWAGI SITE

本当に大騒ぎして

<sup>(58)</sup> 松島さんによると、コタン kotan「村」と言うべきところ、コタヌン kotan un「村の」と言いかけたという。 モニターの指摘で確認した。

⑸ アカイネと聞こえた箇所を松島さんにゆっくり発声してもらうとアカイヒネ a=kay hine と言った。

<sup>(60)</sup> 松島さんによると、イッカリで Iskar DE「イシカリで」とイシカリの村のことを言おうとしたという。

ソンーノ オピッタ キー ヤッカ

sonno opitta ki yakka 本当にみんなで騒いでいても

その シウト エカシ アナッネ

SONO siwto ekasi anakne あの舅のじいさんこそは

ネッカ キーカ ソモキノ アナイネ あー、

nep ka ki ka somo ki no an ayne 何もせずにいたあげく

その シウト ニッパ カ ヤイカタ ケウトゥム

"SONO siwto nispa ka yaykata kewtum 「その舅さんが自分の気持ちで

ソモキ アシウマ、、ヌマ レンカイネ

somo ki, asinuma renkayne やったことではない。私のおかげで

カトゥ アカルワ キ、ネナ

katu a=kar wa ki, ne na その事情がわかるだろう。

イテキ パシロタ ソモ エチキ ナンコンナ

iteki, pasirota somo eci=ki nankor na" お前たちは決して罰するのでないぞ」

セコロ ヘム ネアプ はー、こんど、、

sekor ham?? ne a p, KONDO,, とでも言ったのであるが

ケ、アオイラ アキモルラ したもの

(ke, a=oyra) "a=kimorura SITAMONO 「彼女を山へ運んだことも

アオイラワ アナン ペ アネ アッ

a=oyra wa an=an pe a=ne a p" 私は忘れていたのであったが…」

セコロ ハウェアンコロ チシコロ アヤマッタロ

sekor hawean kor cis kor ayamattaro と言いながら泣いて謝った。

エアラキンネ キー こんどー タネ

earkinne ki KONDO tane 本当に謝っていると、今はもう

シリ クンネッネクス こんどー

siri kunne p ne kusu KONDO 辺りが暗くなったので

アイヌトゥラ アンカ ソモキノ

aynutura=an ka somo ki no 人を連れて行かずに

オロタ スイ レウシアンヒネ ヒネ こんど、へー、

oro ta suy rewsi=an hine KONDO そこにまた、私は泊まって、

ネー スマウネ アカル カムイ アチャクス こんど

ne sumaw ne a=kar kamuy a=ca kusu KONDO 獲物にしたクマを解体するため

アイヌトパ わかいもの トパ アトゥライネ

aynu topa WAKAIMON topa a=tura hine 人々を、若者たちを連れて

スイ エキムネアンネ ネ カムイ はー、アチャ

suv ekimne=an hine ne kamuv a=ca

再び山へ行ってクマを解体した。

シーノ パー、ポロカムイ ネブネクス アイヌトパー

sino poro kamuy ne p ne kusu aynu topa とても大きなクマなので人の集団を

アトゥラ コョカ セーコヤイクシパ コョ

a=tura korka se koyaykuspa kor

連れて行ったけれども背負いあぐれながら、

トゥイマプネクス セーコヤイクシパワ、ア、

tuyma p ne kusu se koyaykuspa wa (a, )

遠いので背負いあぐねて、

ネノ はー、こんど アシケヘ アカンネ タ、サン、、

neno KONDO a=sikehe a=kar hine

それなりに荷物を作って

サパン ヒネ こんど サケカルパ アー イナウケパ

sap=an hine KONDO SAKE karpa inawkepa 下がってから、酒造りと御幣作りをして

ネー カムイ ピッカ カムイネ アン クニーネ はー、

ne kamuy pirka kamuy ne an kunine

そのクマが立派な神様になるように

カムイノミパ サパハカ アイワッテ、、キー ヒネー

kamuynomipa sapaha ka a=iwakte,, ki hine

祈った頭を魂送りして

エアラキンネアン ネー コタン コルー ニッパ

earkinnean ne kotan kor nispa

本当にその村長と

カッケマク ネヤッカ ポホ ネヤッカ

katkemat ne yakka poho ne yakka

奥さんも息子さんも

イコオンカミ ロッ イコオンカミ ロッ

i=koonkami rok i=koonkami rok

私に礼拝を重ねた。

おかげで アプンノ アポホ カー、ア、ア、

"OKAGEDE apunno a=poho ka

「あなたのおかげで何事もなく私の子供も

アマチヒカ シッノ セコル ハウェオカパコル

a=macihi ka siknu" sekor hahaweokapa kor

妻も生きていた」と言いながら

ソンーノ エヤイコプンティ パー コル

sonno eyaykopuntekpa kor

大喜びで

ネ サパハ アイワッテ したり

ne sapaha a=iwakte SITARI

その頭を送ったり

カムイ サパー アイワッテ したり キー イネ

kamuy sapa a=iwakte SITARI ki hine

クマの頭を「神の世界へ〕送って

<sup>[6])</sup> 松島さんによると、複数形であるセコヤイクシパ se koyaykuspa「~が背負いきれない」の他の表現でセパコ ヤイクッ seoa koyaykus もあるという。単数形ではアセコヤイクッ a=se kotatkus「私は背負いきれない」と表 現する。いずれも荷物を背中に担ぐことであり、手で持つことに対しては用いない。

ス、ノ アンチカル スイ レウシアンイネ ヒナクス

no ancikar suy rewsi=an hine hine akusu 夜になると再び私が泊まっていたところ

エアラキンネ ネー カムイ ミナカスネ ミナ コロ

earkinne ne kamuy mina kasune mina kor

クマの神がとても嬉しそうに笑いながら

エアラキンネ テイネ モシリ アイ コーテレケーカ

"earkinne teyne mosir a=i=koterke ka

「まったく湿った世界に落とされも

ソモキノー ふー、いままで どーり

somo ki no MAMADE DORI

しないで、今までどおりに

カムイネー シロマアン クニ カムイフチ オルワノ

kamuy ne siroma=an kuni kamuy huci orwano

神として私がきちんとするように火の神から

ソンコホ アラパ アラパブネクス ネヒネノ

sonkoho arpa arpa p ne kusu, ne hi neno イキアンナ アタナン カムイネ アナンペ

ことづてが何度も来たのでそれなりに

iki=an na atanan kamuy ne an=an pe 私は務めを果たすぞ。私がいたらない神

アネークス テワノ エチセレマカー

a=ne kusu tewano eci=sermaka

アウュワー エ、、ネァ エチコンルスイ

a=us wa nep eci=kor rusuy

であったため、これからはお前たちの背後

ネッ エチー、、シトマカ ソモキノ

について、何をお前たちが欲しい〔とか〕

nep eci=, , sitoma ka somo ki no

エチセルマカー アウシ クニッ ネナー セコロ

何を恐れることもないように

eci=sermaka a=us kuni p ne na" sekor お前たちの背後についているつもりだぞ | と ウェンタラプアン スイ キー オピッタ ネ ニッパ カ

wentarap=an, suy ki opitta ne nispa ka 私が夢を見た。旦那さんたちも

ウェンタラブ、アシヌマカ ウェンタラブ ペネクス

wentarap, asinuma ka wentarap pe ne kusu

夢を見て、私も夢を見たので

こんど シュネイケ こんど ネ、チ、カムイ

KONDO ne kamuy KONDO simne hike

その翌日、クマの

アリ したやつやら チッ アエシッテ イネ

a=ri SITAYATU YARA cip a=esikte hine 皮をはいだものを舟に積んで、

こんど アウニタ エーカナクス ア、、

我が家に来ると、

KONDO a=uni ta ek=an akusu

<sup>(62)</sup> 松島さんによると、ここはアキ a=ki「私がする」とすべきであるという。

⒀ モニターの方からシンネイケ simneyke に聞こえるとご教示があったので、松島さんにゆっくり発声してもら うと、シュネヒケ simne hikeと言ったので、その形でローマ字表記した。意味は「翌日」である。

ホシピアン イネ エーカナクス エアラキンネ

hosipi=an hine ek=an akusu earkinne

アユピウタリ アオナハ ウタリ もら、、

a=vupi utari a=onaha utari MOU...

ヒナクン エアラパワ エネ トゥッコもレリコも

"hinakun e=arpa wa ene tukko MO rerko MO 「お前はどこに行って二日も三日も

エ イワッ イサムするんだ セコロ

e=iwak isam SURUNDA" sekor

イコパシロタパ するもんだから

i=kopasirotapa SURUMONDAKARA

タッネ タッネ カネ ネワ マカンベ クスー

tapne tapne kane ne wa "mak an pe kusu

アラパアン ルスイワー メノコー わらしー

arpa=an rusuv wa menoko WARASI

アツ、、 アシャヌレ ワ アトゥラ ワ

a=siknure wa a=tura wa

イシカルー コタンコンニシパ オルン

Iskar kotan kor nispa orun

とどけて エカンペ アネ ルウェネー

TODOKETE ek=an pe a=ne ruwe ne"

セコロ ハウェアナナクスー

sekor hawean=an akusu

ソンーノ エヤイコプンテ、、イコパシロタ パコロ

sonno (evavkopunte...) i=kopasirotapa kor

オカパッカ エヤイコプンテッパ

okapa yakka yaykopuntekpa

ケウトゥム ピリ、、アイヌ アナク ピー、

(kewtum pir.,) "aynu anak (pi,)

ケウトゥム ピッカ コロ カムイ ヌカルワ

kewtum pirka kor kamuv nukar wa

ピリカブ ネナー セコル アウヌ アオナハカ

pirka p ne na sekor (a=unu, ) a=onaha ka

アウヌフカ ハウェアン

a=unuhu ka hawean

私が帰って来ると本当に

私の兄たちや父さんたちが

帰って来なかったのだ?」と

私を叱ったので

かくかくしかじかで「どういうわけか

そこへ行きたくなって女と子供の

命を救ってから同伴して

イシカリ村の村長のところへ

届けに来たのです。」

と私が言うと

本当に私を叱りつけながら

いたけれども喜ぶのであった。

「人間というのは

心を正しくしていると神様が見て

良くするものだ」と私の父も

母も言った。

北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第8号(2002年3月)

アユピ ウタリカ キワ オラー

a=yupi utari ka ki wa, ora

ネー イシカルン コタン オルワ

ne Iskar un kotan or wa

ニッパー ウタラ マク、、エトゥンパ ワー

nispa utar mat etunpa wa

アユピヒ カ マッコロ アシヌマカ マッコロ アン

a=vupihi ka matkor asinuma ka matkor=an

ピリーカ スクァ アキッネクス

pirka sukup a=ki p ne kusu

ホロケウカムイ メノコ シクヌレ したから

ゆうって シノ ニッパ ゆったと。

YUUTTE sino nispa YUTTATO

私の兄たちも喜んで、それからは

そのイシカリの村から

だんなさんたちの娘を嫁にして

兄も私も妻を持って暮らした。

幸せに年をとった私であったため

horkew kamuy menoko siknure SITAKARA オオカミの神様が女の命をとりとめさせたので

語ったのだと、本当の長者が話しました。